

前回(第9回)委員会の補足・後日提出意見

- ・前回(第9回委員会)で出された意見・質問についての事務局からの補足説明・回答と、委員会後に提出された意見の全文を記載しています。

第9回委員会意見への補足

- 「調布市バリアフリー特定事業計画」において、「ソフトのバリアフリー」にはどのような事業が掲載されているのか。

⇒(「調布市バリアフリー特定事業計画」(平成25年3月)より抜粋)

- 公共交通特定事業(事業主体:電車,バス事業者)
 - ・駅係員,乗務員のバリアフリー教育の推進
 - ・エレベーター・エスカレーターやトイレ等における利用ルールやマナー,バリアフリーの取組等を周知する情報提供(広告・ホームページ等)の実施
 - ・社員教育による車いす利用者や盲導犬同伴の方などへの接客向上
 - ・バス停留所への正着やコーリングの実施
 - ・筆談具やコミュニケーションボードの設置
- 交通安全特定事業(事業主体:東京都公安委員会)
 - ・自転車利用者へのマナー啓発活動の実施
 - ・自転車の通行ルールに関する取締り強化
- 建築物特定事業計画(事業主体:調布市,商業施設など)
 - ・利用者への適切な対応を推進するための職員教育の実施
 - ・施設周辺の道路上における放置自転車や看板設置の禁止を促す取組の実施
 - ・筆談具やコミュニケーションボード設置及び設置を示す案内表示

- 調布市社会福祉協議会による出前講座で、障害理解について小中学校で行っている実績はどれくらいあるのか。子どもたちへの正しい障害理解の普及にも役立っていると思う。

⇒ (調布市社会福祉協議会 事業報告書 より抜粋)

出前ボランティア講座の実施

	平成 27 年度	平成 28 年度
出前回数	37 回	37 回
出前先	小学校 28 回 中学校 3 回 高等学校 3 回 その他 3 回	小学校 26 回 中学校 3 回 高等学校 5 回 その他 3 回
受講生 (延べ)	3,588 人	3,499 人
派遣スタッフ (延べ)	201 人	228 人
開催講座数	147 講座	154 講座
内訳) 手話	29	31
視覚障害者ガイド	37	38
点字	47	45
車いす	34	40

後日提出された意見

【委員 1】

『地域の環境づくり』について思ったこと

- バス停、待機する場所が狭い。歩行者にぶつかりそうになるくらい狭い歩道があり危険。
- バス停の停車するスペースは整備されつつあるが歩道の整備はまだまだ。
- だれでもトイレの閉鎖、南口サイゼリアのビルにあった誰でもトイレが閉鎖されてしまった。新しく設置されたトイレが閉鎖されてしまい、利用者もこのトイレを使用することを計算して行動していたので大変だった。調布社協がたまたま開所されていたので間に合ったが非常に残念だった。今後京王調布トリエがオープンされることによってだれでもトイレの利用が増えて欲しい。
- ベンチ、休む場所として増えてもいいかもしれない。
- 個人商店とチェーン店の『対応』について
視覚に障がいのある方が定員さんを呼び掛けて話したかったのだが後回しにされることがしばしばある。

【委員 2】

障害理解・差別解消の促進への取り組みの案です。

「認知症サポーター養成講座」の受講促進

まずは、「認知症サポーター養成講座」を、全部の小学校で開くのはいかがでしょうか。

「知的障害・精神障害等、外見ではわかりにくい障害の理解に関するプログラムの検討」ということが自立支援協議会での意見具申に基づく具体的方向性の一つとして挙げられていますが、新しいプログラムの開発は容易にはいかないと思います。

そうであれば、とっかかりとして、同じく外見ではわかりにくい認知症についての講座受講を進めながら、並行して知的障害・精神障害等について検討していく、という順番がよいと思います。

「認知症サポーター養成講座」は、既に全国で900万人以上が受講した実績があるとのこと。

なお、この養成講座の講師をしている方に話をきいたことがあるのですが、一番反応がよいのは小学生だそうです。

ですので、「調布市では小学生のうち全員が受講して、受講した証明となるオレンジリングを手にする」というのは実行可能で効果があがるかと思っています。

また、スーパーマーケット・コンビニ等の商店や、交通関係の会社、銀行などで、従業員の多数が

「認知症サポーター養成講座」を修了した企業等は、調布市のホームページに載せるなどして、企業単位での取り組みも促進するとよいと思います。

【委員3】

- 分野ごとのポイントに絞って話し合うのはいいことだが、計画を全体的に大きくみたときに整合性が取れているか確認が必要。そのための話し合う機会を設けてもいいのではないか。

- 差別解消法について

具体的な相談機関や対処法を示してほしい。協議会が今年度始まったが、年に数回の開催のため、会議では具体的な相談は受けられない。誰もが気軽に相談できる機関があるといい。例：消費者センターとか

- バリアフリーのまちづくりについて

駅前の整備が進められているが、計画通りに進んでいるのか、もう一回説明を聞きたい

- 災害時の支援について

それぞれの計画で防災対策は検討されているようだが、大元である市の防災計画とリンクしているのか、検討されている内容はシュミレーションされているのか。

例えば、居住地域の避難所は6中で、自治会等からインフォメーションされているが、福祉避難所については、詳しくは知らされていない。災害の際、福祉避難所は避難所とどう結びついているか、シュミレーションが必要なのではないか。ここで検討する災害時の支援はおまけ的に感じる。絵に描いた餅にならないように。

- 高齢障害者について

肢体、聴覚、視覚等障害者によっては障害特性の様々な課題があり、高齢者と一括りにはできない。例えば、高齢になって老人ホームに入った障害高齢者が認知症の高齢者とでは合わないと聞いた。障害者が高齢になってもこれまでの暮らしを維持できる環境づくりが必要。